

2～4 術前オリエンテーションの再検討

南5病棟 ○小田さと子 森川 宮川 吉川 相内
 榊 井出 久保 内山 波戸崎 松田
 平尾 中山 宮沢 長友 高城 中込
 天野 松 下前 中島 吉田

I はじめに

術前オリエンテーションは、患者の不安を理解し少しでも不安を取り除き、最良の状態で手術に臨み、又手術後の経過が順調に進むよう合併症予防に努めるべく援助できることを目的として行なわれるものである。

昨年は、この術前オリエンテーションについて検討を行ない、患者へのアンケート結果によりそれまでの術前オリエンテーションが口頭指導のみにとどまり、トレーニングまで徹底して行なわれていなかったのではないかという反省を得ることができた。

そこで、これまで活用していなかったオリエンテーションチェックカードを使用しての、トレーニングを含めた本来の術前オリエンテーションの目的に近づけられるよう努力してきた。

今回は、こうして行なってきた術前オリエンテーションについて、再度患者アンケートをとり検討してみることにした。

II 研究の実際

A 目的

術前オリエンテーションチェックカードを使用しての術前オリエンテーションについて検討する。

B 対象

全身麻酔による手術後の患者50名

平均年齢 68.5才

男女同数

C 調査期間

昭和59年9月1日から10月31日までの2ヶ月間

D 調査方法

アンケート用紙を配布し数日後に面接方式にて回収。
 回収率 100%

E 調査内容

術前オリエンテーションチェックカードを使用しての術前オリエンテーションについてのアンケート。

F アンケート内容及び結果

術前オリエンテーションを受けた後、練習を行なったもの。

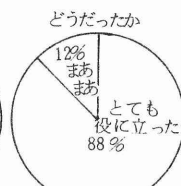
1. 深呼吸練習



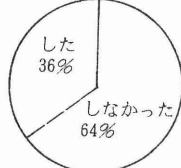
(58年)



(59年)



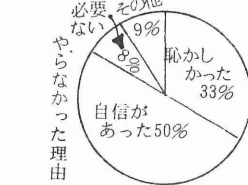
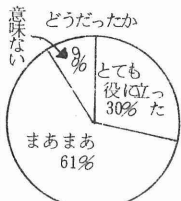
2. 排泄練習



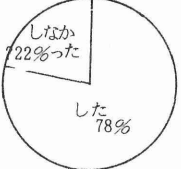
(58年)



(59年)



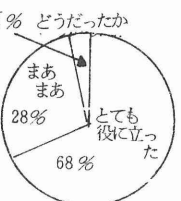
3. ネブライザー



(58年)



(59年)



術前オリエンテーションを受けた時期は適当であったか。

適当であった。 100%

III 考察

老人は、一般的に身体組織や諸臓器の老化による機能低下が認められ、手術・麻酔では術前管理が術中・術後の経過や予後に重大な影響を与える。

当病棟も成人外科病棟ではあるが、アンケート結果をみると、手術対象者の平均年齢は68.5才(最高82才)と

いうかなりの高齢化をたどっている。

昨年までの術前オリエンテーションの方法では、深呼吸、ネブライザー、排泄などの具体的なトレーニングは徹底して行なわれておらず、術前オリエンテーション用紙にそって紙上のみ説明を行ない、手術への意識を十分高めることはできなかった。

そこで今回は、術前トレーニングチェックカードを手術4日前よりカードックスにはさみ、トレーニングの経過がわかるように日付けとサインをし、継続してトレーニングが行なわれ、手術に向うよう考慮した。

その結果、深呼吸、ネブライザーについては100%の練習率を得、とても役立ったという声が多かった。深呼吸について述べると、これは、トレーニングの際アイデセップ、風船などの器具を使用することにより患者に関心をもたせるよう努めたことが効を奏したのかもしれない。排泄については、56%の練習率であり、昨年より20%の伸びがみられたが、依然として44%の患者は練習をしなかったと答えた。やらなかった理由とその結果は図を参照のごとしである。

この結果を見て私達は、やらなくてどうであったかという問いに対し、「支障がない」との解答が75%も高率を占めたことに意外性を感じた。確かに術前にベット上排泄の経験をした患者（検査などで）、術後1日目より歩行可となる患者（たとえば定型的乳房切断術など）が支障ないと考えても不思議ではない。しかし25%の患者がなんらかの支障をきたし、やればよかったと答えている。

排泄は、人間がいかなる状態にあろうとも欠かすことのできない大切な生理的現象であり、この現象は環境の変化や神経、精神の作用を受けやすく、比較的容易に変調をきたしやすい。ゆえに、術前トレーニングの排泄は紙上のみでなく、看護者が積極的に働きかけて患者に経験させていくことが必要と思われる。

以上のことから、術前オリエンテーション施行時、プログラムの一環として、ネブライザー、深呼吸、便、尿器の使用方法を体験させる事は、患者の手術に対する心構えができ、トレーニングの必要性を理解させることに役立った。

また今回、ナースサイドにおいて意識調査を行なったところ、患者のトレーニングの進行段階を把握し、継続して術前オリエンテーションを行なうのに効果的であるという結果を得たことを報告する。

Ⅳ おわりに

わが国の人口の高齢化とともに、年々高齢者手術件数も増加の傾向にある。この様に、手術症例の高齢化が進むに従って、より良い成果を得るには、麻酔を含めて術前、術中、術後の患者管理がきわめて重要である。

私たちは今回の研究で、看護婦の患者への積極的な働きかけが看護にとってきわめて重要であることを学んだ。今後はこの患者への積極的な働きかけを、患者の個性を考えたよりよいものへと発展させ、患者管理に活かしてゆきたい。

今回の研究を行なうにあたり、御協力、御指導いただいた方に、厚く御礼を申し上げます。

Ⅴ 参考文献

- 1) 最新看護学全書 外科Ⅰ メジカルフレンド社
- 2) 患者ケアの臨床心理—人間発達学 アプローチ医学書院
- 3) 月刊ナーシング 1983年12月号（ベッドサイド・ナーシングを考える）
- 4) 看護技術 1982年1月臨時増刊号（老人看護読本）
- 5) 看護技術 1982年1月号（老人の手術と看護）
- 6) 臨床外科看護 メジカルフレンド社
- 7) クリニカルスタディ 80-5 VOLⅠ（術前看護の対策）

患者さんへ

今回、当病棟看護婦一同で手術前オリエンテーションについての検討を行なうことになりました。

皆さんの意見を参考にしたいと思いますので、アンケートに御協力下さい。

1. 年齢（ ） 性別（ ）
2. 手術前オリエンテーションを受けた時期は適当でしたか？
 - ① 4日前でよかった。
 - ② もう少し早く（ ）日前ぐらいがよい。
 - ③ その他（ ）
3. 手術前に、看護婦の説明を受けた後、実際に自分で練習を行ないましたか？

①深呼吸練習	はい	いいえ
②排泄練習	はい	いいえ
③ネブライザー	はい	いいえ
4. ③で、はいと答えた方は、行なってどうであったか。いいえと答えた方は、行なわなかった理由と行なわなくてどうであったかを、次の項目の中から選んで下さい。

①②③について次の項目の中から選んで下さい。

A はい

- ①深呼吸 () ①とても役に立った。
②排泄 () ②まあまあ役に立った。
③ネブライザー () ③やってもあまり意味がなかった。
④その他

B いいえ—理由—

- ①深呼吸 () ①必要ないと思った。
②排泄 () ②はずかしかった。
③ネブライザー () ③時間がなかった。
④できる自信があった。
⑤その他

5. 手術に関して不安と思う項目に○印をつけて下さい。

- ①麻酔について
②手術後の付き添いについて
③手術後の身体的変化について
④輸血について
⑤痛みの程度、痛い時の処置について
⑥経済的（金銭的）問題について

⑦入院期間について

⑧手術後の部屋（個室など）について

⑨その他 ()

6. 手術前に他に行なっておけばよかった、又、問いておけばよかったと思うものは何ですか？あれば書いて下さい。

7. 手術前オリエンテーション、トレーニングについて何か御意見がありましたら書いて下さい。

8. 同居人

御協力ありがとうございました。

南5階看護婦一同

第2群発表

2～5 術後早期離床を考える

チェックリストの再検討

南6病棟 ○松ヶ崎揮代 小東 関口 酒匂
水野 高橋 竹花 高松 古田
西沢 小橋川 山下 戸谷
佐々木 完山 小野 内海 手塚

I はじめに

術後とは一般に、外科医が最後の縫合を終えたときからはじまり、手術の結果、生体に起こる反応や組織が完全に修復されるまでをいう、と説明されている。そして、術後の看護の方針は、患者の苦痛を和らげ、合併症を防ぎ、心身の正常な機能の回復を助けることにある。そこで現在では、早期離床を励行し、術後合併症の予防や、すみやかな回復をみるようになってきている。

最近、私たちの病棟において、外科患者が急増してきたため、手術件数も増加している。そこで私たちは、早期離床を目標とした、術後の看護を行うように心がけている。昨年は、術後の患者を対象とするカードックスを

工夫し、チェックリスト形式のカードックス2号用紙を作成することによって、早期離床に役立てようと試みた。およそ1年間の使用期間を経て、スタッフから種々の意見が出たため、経続してチェックリストの改善を図っている状況である。

そこで、さらに私たちは、看護計画の主座をおこなうカードックスを利用し、術後の経過を追って、患者の個性と回復状態に応じたニーズを把握し、管理するように努めている。そして、より患者中心の看護に一步前進できるよう、カードックス（チェックリスト）の検討と改善について、ここに報告する。